

福井県における死亡の現状について

(令和6年度)

福井県の死因究明体制の現状

【法医の体制等(R7.3.1時点)】

○法医解剖実施機関数・・・1件(福井大学)

○常勤の法医数・・・2人

【解剖実施件率および死亡時画像診断実施率】

	年度	警察取扱死体数											全国順位
		(A) (体)	うち解剖実施件数 (B) (件)	うち司法解剖 (件)	うち調査法解剖 (件)	うちその他解剖 ※ (件)	解剖実施率 (B/A) (%)	うち死亡時画像診断実施件数 (C) (件)	死亡時画像診断実施率 (C/A) (%)	解剖又は死亡時画像診断実施件数 (B+C) (件)	解剖又は死亡時画像診断実施率 (B+C/A) (%)	人口10万人あたりの解剖又は死亡時画像診断実施件数 (件)	
福井	R3	1,250	84	79	5	0	6.7%	264	21.1%	348	27.8%	45.3	8
	R4	1,369	129	117	12	0	9.4%	260	19.0%	389	28.4%	51.2	7
	R5	1,251	145	125	20	0	11.6%	国集計中	国集計中	—	—	—	—
	R6	1,297	108	82	26	0	8.3%	国集計中	国集計中	—	—	—	—
全国	R3	177,077	18,533	8,864	3,211	6,458	10.5%	16,579	9.4%	35,112	19.8%	27.9	—
	R4	199,459	19,343	9,551	3,285	6,507	9.7%	18,275	9.2%	37,618	18.9%	30.0	—
	R5	198,664	20,093	10,099	3,116	6,878	10.1%	国集計中	国集計中	—	—	—	—
	R6	204,184	20,046	9,911	3,506	6,629	9.8%	国集計中	国集計中	—	—	—	—

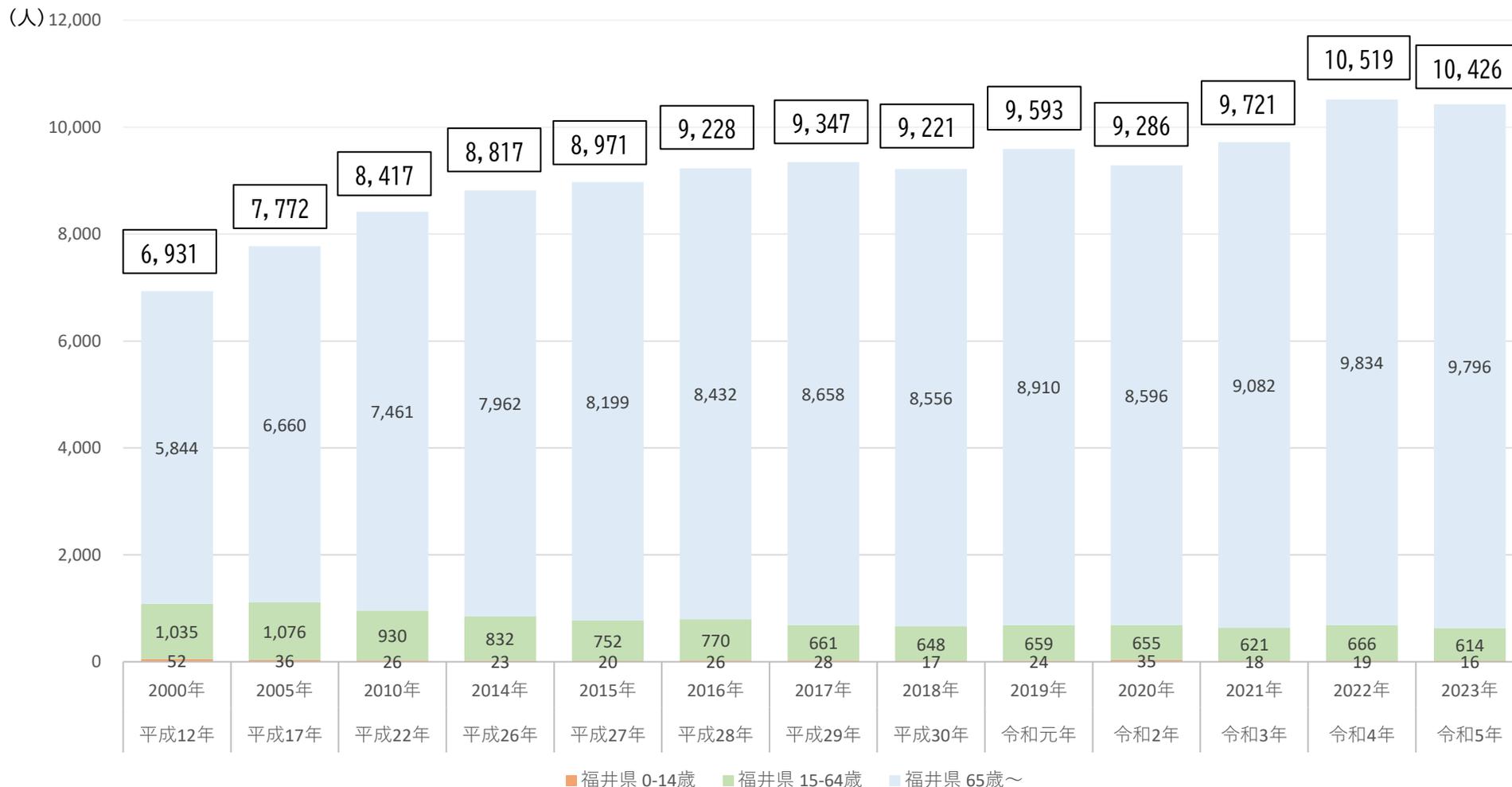
出典:都道府県における死因究明等の体制等に関する参考資料(厚生労働省)

※その他解剖には、監察医制度のある都府県が行う行政解剖や公衆衛生の向上を目的とした承諾解剖を含む。

⇒ 令和3～4年度において、解剖又は死亡時画像診断実施率は全国平均以上

死亡者数の推移(福井県)

- ・令和5年の死亡者総数は10,426人であり、平成12年と比較すると、約3,500人ほど増加している。
- ・年齢階層別では、65歳以上の割合が増加しており、64歳以下の死亡者数は、年々減少の傾向にある。



死因分類別 死亡数・構成割合・死亡率(全国／福井県)

- ・全死因の死亡率は、全国が1300.4人であることにに対し本県は1430.2人であり、若干高い。(粗死亡率)
- ・全国と本県の死因の構成比を比較すると、「病死・自然死」と「外因死」の比率は類似しているが、「外因死」の構成比では、本県は「自殺」の割合が若干低く、「不慮の事故」の割合が若干高い。
- ・なお、「特殊目的用コード」には、新型コロナウイルス感染症による死者が含まれている。

令和5年(2023年) 死因別死亡数、構成割合、死亡率

(単位:人)

死因	全国				福井県(総計)			
	死亡数	死亡総数に占める割合(%)	死亡率(人口10万人対)		死亡数	死亡総数に占める割合(%)	死亡率(人口10万人対)	
			総人口	121,193,394			総人口	729,000
全死因	1,576,016	100.00%	1,300.4		10,426	100.00%	1,430.2	
病死、自然死	1,463,523	92.86%	1,207.6		9,692	92.96%	1,329.5	
外因死	74,373	4.72%	61.4		515	4.94%	70.6	
不慮の事故	44,440	2.82%	36.7		347	3.33%	47.6	
交通事故	3,573	0.23%	2.9		26	0.25%	3.6	
転倒・転落・墜落	11,784	0.75%	9.7		85	0.82%	11.7	
不慮の溺死及び溺水	8,993	0.57%	7.4		88	0.84%	12.1	
不慮の窒息	8,644	0.55%	7.1		63	0.60%	8.6	
煙、火及び火災への曝露	1,004	0.06%	0.8		13	0.12%	1.8	
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	537	0.03%	0.4		2	0.02%	0.3	
その他の不慮の事故	9,905	0.63%	8.2		70	0.67%	9.6	
自殺	21,037	1.33%	17.4		99	0.95%	13.6	
他殺	229	0.01%	0.2		4	0.04%	0.5	
その他の外因	8,667	0.55%	7.2		65	0.62%	8.9	
特殊目的用コード <small>※原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類</small>	38,120	2.42%	31.5		219	2.10%	30.0	

※死亡率「人口10万人のうち何人死亡したか」で表現される。

2023年の各死亡率= 2023年に各死因により死亡した日本人の数/2023年の日本人人口 × 100000。

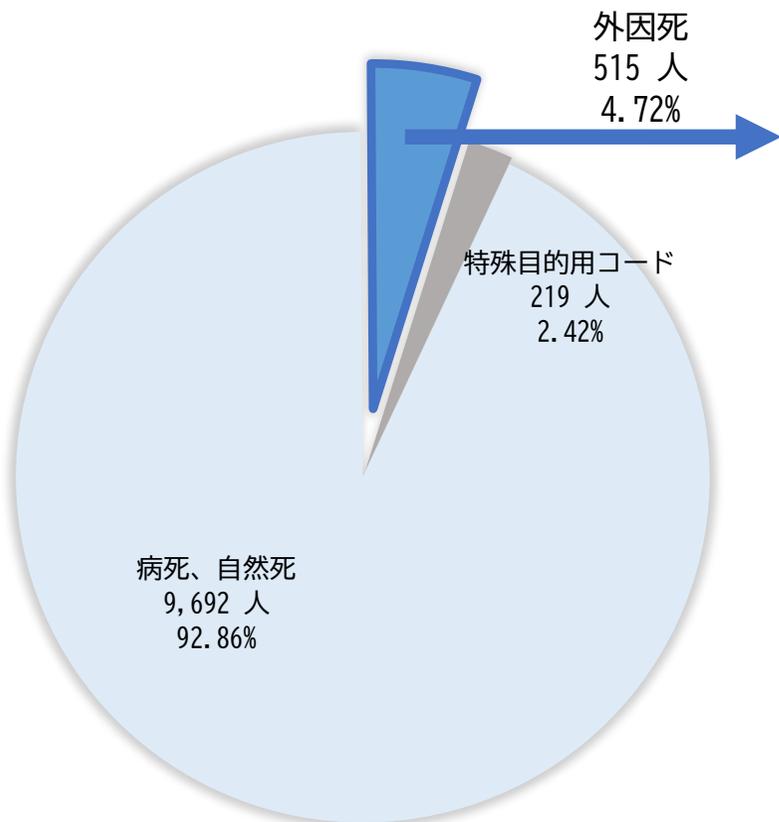
出典：令和5年人口動態統計 上巻 死亡 第5.19表 死因(死因简单分類)別にみた都道府県(特別区-指定都市再掲)別死亡率(人口10万対)4

令和5年人口動態統計 下巻 死亡 第4表 死亡数、死因(死因简单分類)・性・都道府県(特別区-指定都市再掲)別

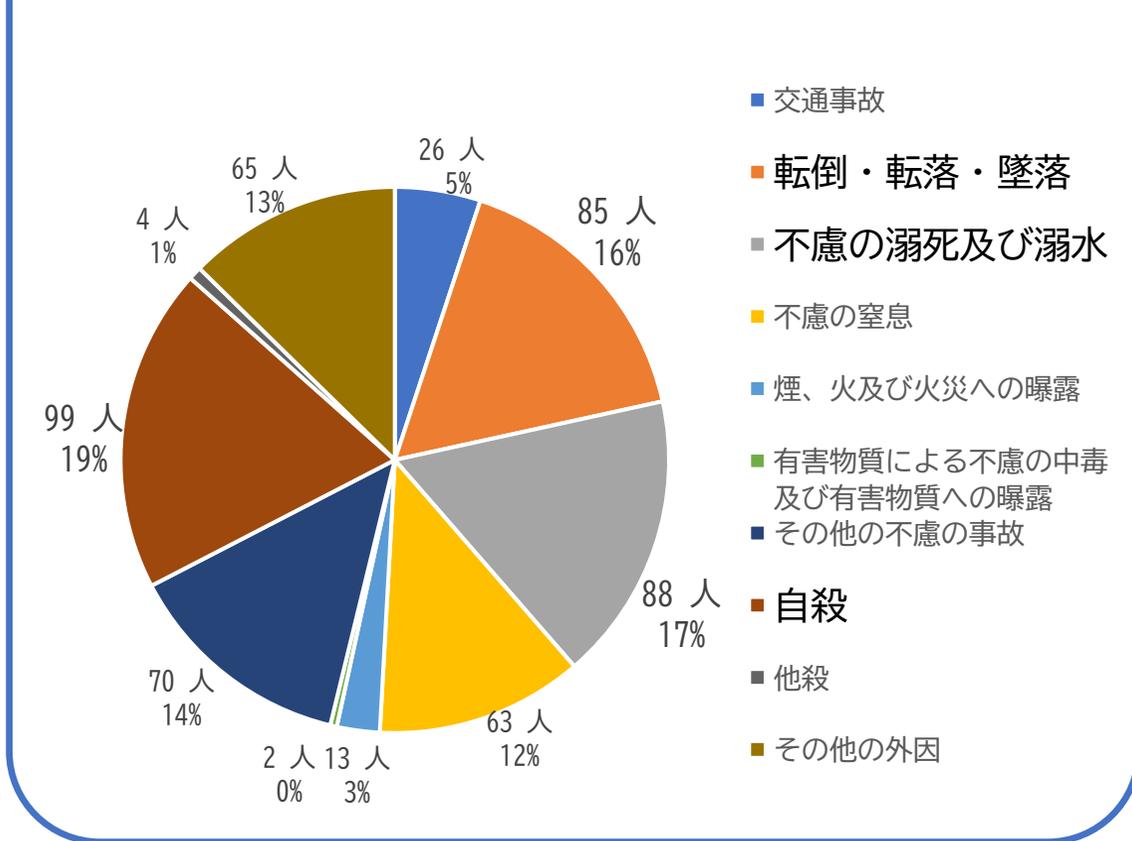
死因分類別 死亡数・構成割合(福井県の詳細)

- ・死因に占める「外因死」の割合は約5%
- ・外因死の内訳は、「自殺」・「不慮の溺死及び溺水」・「転倒・転落・墜落」が多い。

令和5年 死因



外因死の内訳



死亡割合・死因順位別年次推移(全国)

- ・平成30年以降、1位は「悪性新生物(がん)」、2位は「心疾患」、3位は「老衰」である。
- ・どの項目も10万人あたりの死亡率の数値は上昇傾向にある。

年次		第1位			第2位			第3位		
		死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率
2000	平成12	悪性新生物	295,484	235.2	心疾患	146,741	116.8	脳血管疾患	132,529	105.5
5	平成17	悪性新生物	325,941	258.3	心疾患	173,125	137.2	脳血管疾患	132,847	105.3
10	平成22	悪性新生物	353,499	279.7	心疾患	189,361	149.8	脳血管疾患	123,461	97.7
11	平成23	悪性新生物	357,306	283.2	心疾患	194,926	154.5	肺炎	124,749	98.9
12	平成24	悪性新生物	360,963	286.6	心疾患	198,836	157.9	肺炎	123,925	98.4
13	平成25	悪性新生物	364,873	290.3	心疾患	196,723	156.5	肺炎	122,969	97.8
14	平成26	悪性新生物	368,106	293.5	心疾患	196,931	157.0	肺炎	119,652	95.4
15	平成27	悪性新生物	370,362	295.5	心疾患	196,127	156.5	肺炎	120,959	96.5
16	平成28	悪性新生物	373,088	298.4	心疾患	198,070	158.4	肺炎	119,346	95.5
17	平成29	悪性新生物〈腫瘍〉	373,365	299.5	心疾患	204,868	164.4	脳血管疾患	109,896	88.2
18	平成30	悪性新生物〈腫瘍〉	373,584	300.7	心疾患	208,221	167.6	老衰	109,605	88.2
19	令和元	悪性新生物〈腫瘍〉	376,425	304.2	心疾患	207,714	167.9	老衰	121,863	98.5
20	令和2	悪性新生物〈腫瘍〉	378,385	306.6	心疾患	205,596	166.6	老衰	132,440	107.3
21	令和3	悪性新生物〈腫瘍〉	381,505	310.7	心疾患	214,710	174.9	老衰	152,027	123.8
22	令和4	悪性新生物〈腫瘍〉	385,797	316.1	心疾患	232,964	190.9	老衰	179,529	147.1
23	令和5	悪性新生物〈腫瘍〉	382,504	315.6	心疾患	231,148	190.7	老衰	189,919	156.7

※死亡率「人口10万人のうち何人死亡したか」で表現される。

2023年の各死亡率 = 2023年に各死因により死亡した日本人の数 / 2023年の日本人人口 × 100000

出典：令和5年人口動態統計 上巻 死亡 第5.11表 死因順位別にみた年次別死亡率（人口10万人対）

令和5年人口動態統計 上巻 死亡 第5.12表 死因（死因年次推移分類）別にみた性・年次別死亡数及び死亡率（人口10万人対）

死亡割合・死因順位別年次推移(福井県)

- ・令和元年以降は本県も全国と同様に、1位は「悪性新生物(がん)」、2位は「心疾患」、3位は「老衰」である。
- ・死亡割合は、「悪性新生物」が低下する一方、「老衰」が増加している。

年次		第1位		第2位		第3位	
		死因	死亡割合	死因	死亡割合	死因	死亡割合
2000	平成12	悪性新生物	29.7	心疾患	15.4	脳血管疾患	12.9
5	平成17	悪性新生物	28.8	心疾患	15.6	脳血管疾患	12.4
10	平成22	悪性新生物	28.1	心疾患	17.0	肺炎	11.5
11	平成23	悪性新生物	27.4	心疾患	17.0	肺炎	11.8
12	平成24	悪性新生物	27.0	心疾患	16.1	肺炎	11.0
13	平成25	悪性新生物	26.5	心疾患	16.4	肺炎	11.0
14	平成26	悪性新生物	27.3	心疾患	16.5	肺炎	9.6
15	平成27	悪性新生物	27.3	心疾患	15.9	肺炎	10.0
16	平成28	悪性新生物	26.4	心疾患	14.9	肺炎	9.8
17	平成29	悪性新生物〈腫瘍〉	25.7	心疾患	16.4	脳血管疾患	8.8
18	平成30	悪性新生物〈腫瘍〉	25.9	心疾患	16.3	脳血管疾患	8.2
19	令和元	悪性新生物〈腫瘍〉	24.5	心疾患	16.2	老衰	8.9
20	令和2	悪性新生物〈腫瘍〉	25.2	心疾患	16.9	老衰	8.8
21	令和3	悪性新生物〈腫瘍〉	24.6	心疾患	16.6	老衰	10.4
22	令和4	悪性新生物〈腫瘍〉	23.1	心疾患	15.9	老衰	11.9
23	令和5	悪性新生物〈腫瘍〉	22.7	心疾患	15.4	老衰	12.2

出典：令和5年人口動態統計 上巻 死亡 第5.20表 死因順位別にみた都道府県（特別区-指定都市再掲）別死亡割合

年齢階級別の死亡順位・死亡数・死亡率(全国)

- ・10歳～39歳までの年齢層での死因の1位は「自殺」であり、15歳～29歳までの死因の半数を超えている。
- ・40歳以上の主な死因は、「悪性新生物」「心疾患」「脳血管疾患」である。
- ・90歳以上では、「老衰」が多い。

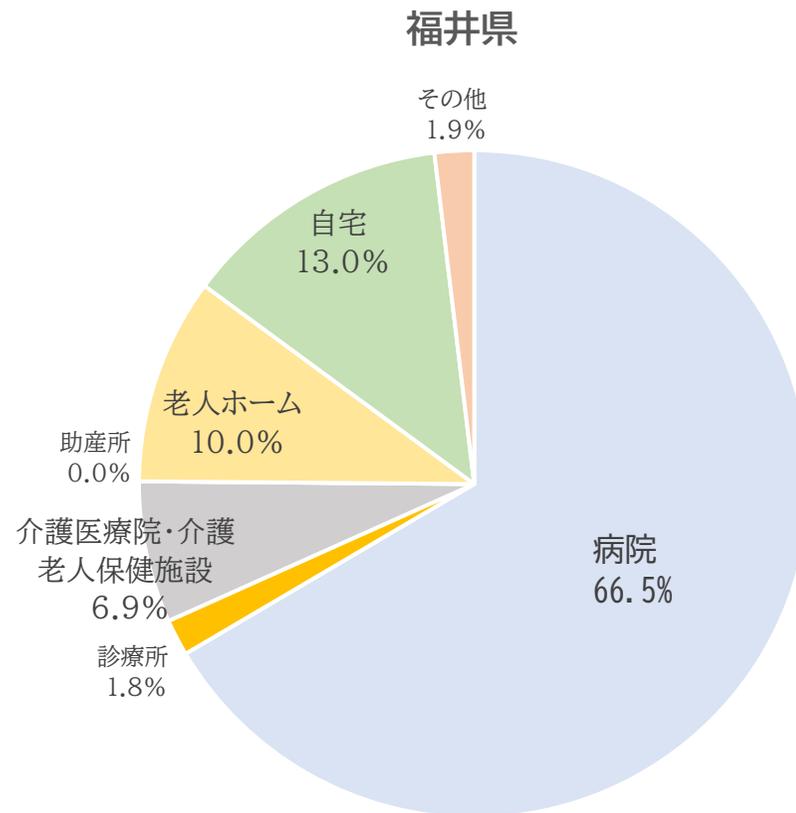
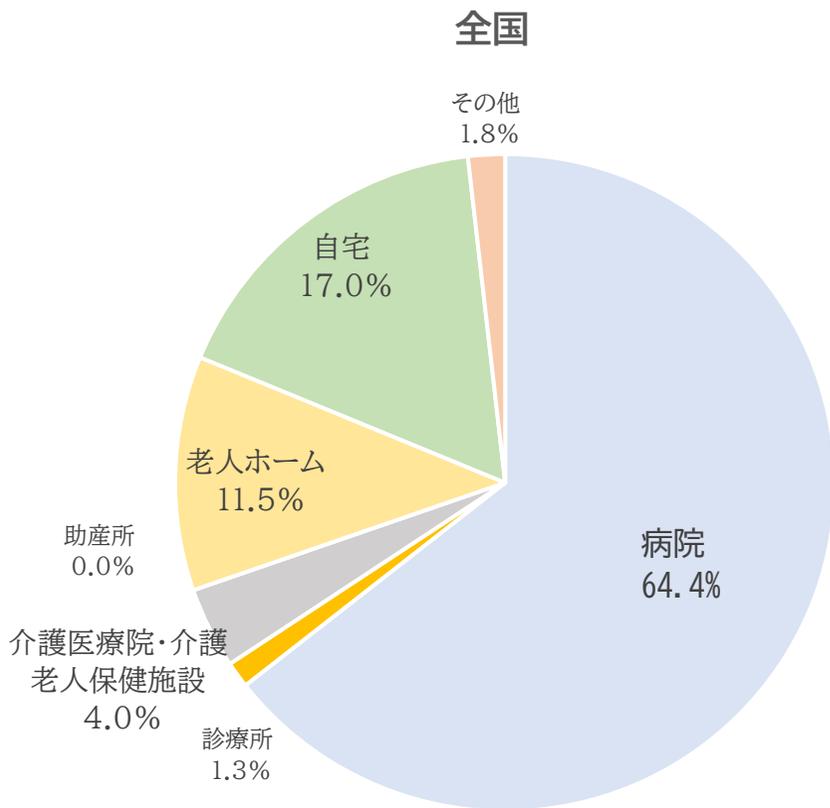
	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
総数	悪性新生物<腫瘍>	382,504	315.6	24.3	心疾患	231,148	190.7	14.7	老衰	189,919	156.7	12.1
0歳	先天奇形, 変形及び染色体異常	464	63.8	35.0	周産期に特異的な呼吸障害等	188	25.8	14.2	不慮の事故	73	10.0	5.5
1～4歳	先天奇形, 変形及び染色体異常	143	4.4	25.7	悪性新生物<腫瘍>	57	1.7	10.3	不慮の事故	45	1.4	8.1
5～9歳	悪性新生物<腫瘍>	83	1.7	24.4	不慮の事故	46	1.0	13.5	先天奇形, 変形及び染色体異常	39	0.8	11.5
10～14歳	自殺	120	2.3	25.5	悪性新生物<腫瘍>	81	1.6	17.2	不慮の事故	51	1.0	10.9
15～19歳	自殺	652	12.1	50.3	不慮の事故	172	3.2	13.3	悪性新生物<腫瘍>	116	2.2	9.0
20～24歳	自殺	1,195	20.8	55.2	不慮の事故	260	4.5	12.0	悪性新生物<腫瘍>	167	2.9	7.7
25～29歳	自殺	1,210	20.4	51.6	悪性新生物<腫瘍>	223	3.8	9.5	不慮の事故	203	3.4	8.7
30～34歳	自殺	1,185	19.9	41.9	悪性新生物<腫瘍>	437	7.3	15.5	心疾患	208	3.5	7.4
35～39歳	自殺	1,320	19.6	29.8	悪性新生物<腫瘍>	951	14.1	21.5	心疾患	396	5.9	8.9
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	1,900	25.3	27.0	自殺	1,570	20.9	22.3	心疾患	694	9.2	9.8
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	3,949	44.2	30.0	自殺	1,935	21.7	14.7	心疾患	1,594	17.9	12.1
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	7,743	81.7	34.5	心疾患	2,923	30.9	13.0	自殺	2,217	23.4	9.9
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	11,102	136.5	37.8	心疾患	3,978	48.9	13.6	脳血管疾患	2,148	26.4	7.3
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	17,356	234.4	41.4	心疾患	5,646	76.3	13.5	脳血管疾患	2,843	38.4	6.8
65～69歳	悪性新生物<腫瘍>	28,303	389.9	42.9	心疾患	8,188	112.8	12.4	脳血管疾患	4,272	58.9	6.5
70～74歳	悪性新生物<腫瘍>	55,119	628.9	41.2	心疾患	16,516	188.5	12.3	脳血管疾患	8,629	98.5	6.5
75～79歳	悪性新生物<腫瘍>	64,289	864.5	36.1	心疾患	22,923	308.3	12.9	脳血管疾患	11,993	161.3	6.7
80～84歳	悪性新生物<腫瘍>	69,732	1,187.8	28.1	心疾患	34,240	583.3	13.8	脳血管疾患	17,400	296.4	7.0
85～89歳	悪性新生物<腫瘍>	65,613	1,654.7	20.4	心疾患	49,430	1,246.6	15.4	老衰	38,344	967.0	11.9
90～94歳	老衰	61,322	3,004.5	20.4	心疾患	50,793	2,488.6	16.9	悪性新生物<腫瘍>	40,819	2,000.0	13.6
95～99歳	老衰	48,816	8,190.6	30.9	心疾患	27,391	4,595.8	17.3	悪性新生物<腫瘍>	12,839	2,154.2	8.1
100歳以上	老衰	18,686	21,478.2	46.8	心疾患	5,844	6,717.2	14.6	脳血管疾患	1,826	2,098.9	4.6

※死亡率 「人口10万人のうち何人死亡したか」で表現される。

2023年の各死亡率= 2023年に各死因により死亡した日本人の数/2023年の日本人人口 × 100000。

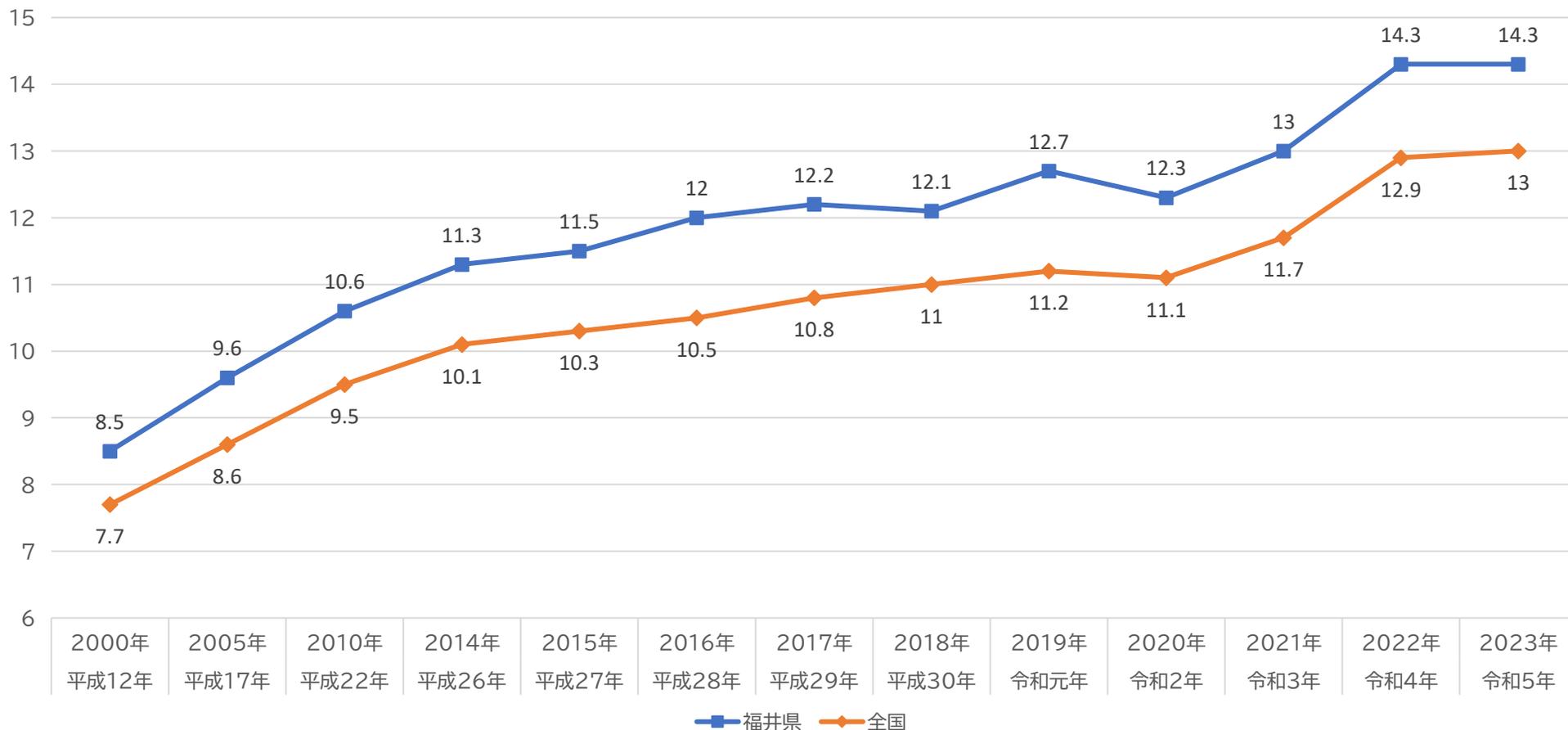
死亡場所(全国／福井県)

- ・死亡した場所は、全国、本県ともに「病院」が最も多く、次いで「自宅」、「老人ホーム」となっている。
- ・本県では「病院」「診療所」「介護医療院等」が全体の75.2%を占めており、全国(69.7%)よりも約5%高く、「老人ホーム」「自宅」の割合は23.0%で、全国(28.5%)よりも低い。



粗死亡率の年次推移(全国／福井県)

- ・粗死亡率は上昇傾向にある中、本県は全国よりも約1ポイント高い水準で推移している。
- ・令和5年は、全国13.0、福井県14.3

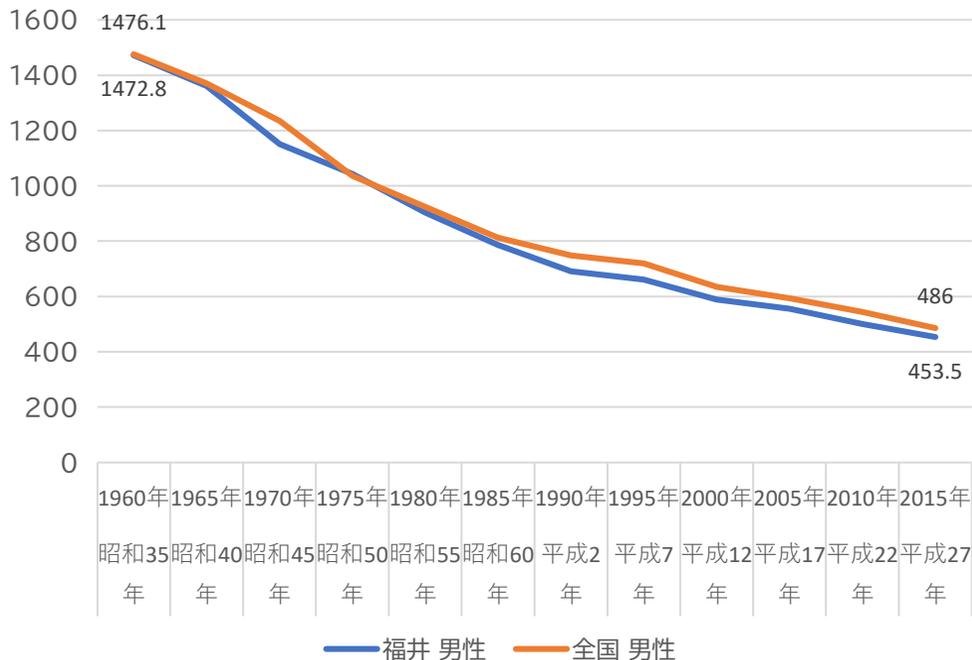


※粗死亡率 一定期間の死亡数を単純にその期間の人口で割った死亡率。年齢調整をしておらず、高齢者が多い地域では高くなる傾向がある。
 本調査では、「人口1千人のうち何人死亡したか」で表現される。
 $2023\text{年の粗死亡率} = 2023\text{年に死亡した人の数} / 2023\text{年の人口} \times 1000。$

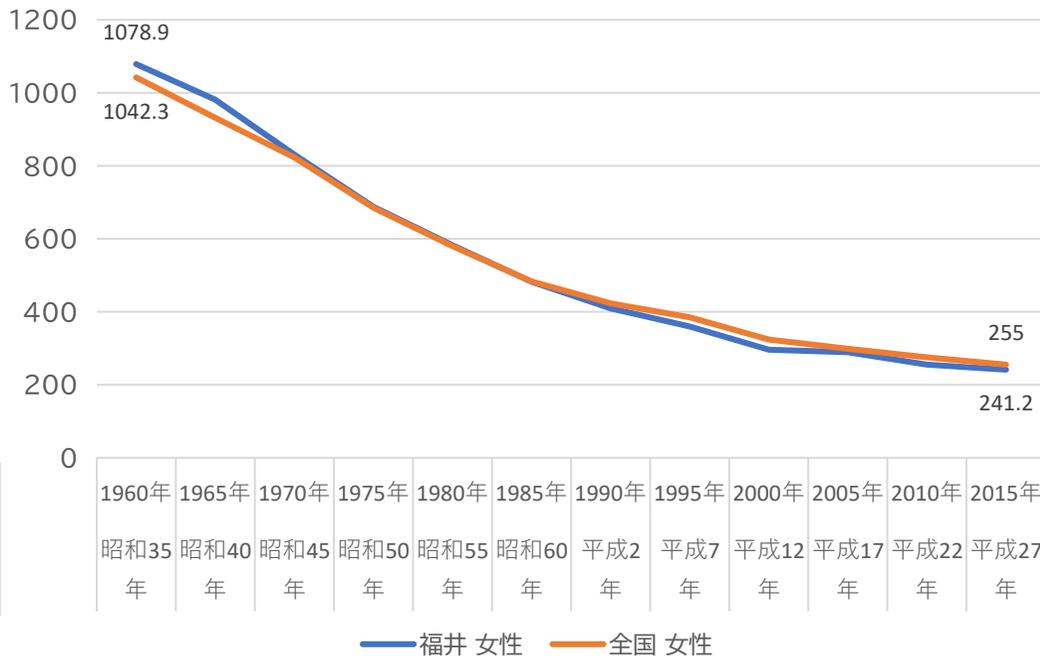
年齢調整死亡率(全国／福井県)

・昭和35年から平成27年まで、男女ともに、全国とほぼ同水準で推移。

年齢調整死亡率（男）の年次推移



年齢調整死亡率（女）の年次推移



出典：平成29年人口動態特殊統計 1表 都道府県別年齢調整死亡率(人口10万人対),全死因・男女・年次別(昭和35・40・45・50・55・60・平成2・7・12・17・22・27年)
(昭和35年から平成27年までは昭和60年モデル人口)

・平成27年モデル人口を用いた最新データ(令和2年)は過去の推移との比較は難しいが、令和2年についても、男女とも全国とほぼ同水準。

〈男〉 全国：1,328.7 福井県：1,310.5 〈女〉 全国：722.1 福井県：696.9

出典：令和2年人口動態特殊統計 1表 都道府県別年齢調整死亡率(人口10万人対),全死因・男女別(令和2年からは平成27年モデル人口)

※年齢調整死亡率 集団全体の死亡率を、基準となる集団の年齢構成(基準人口)に合わせた形で求められる。(人口10万人当たり)

$$\{[\text{観察集団の各年齢(年齢階級)の死亡率}] \times [\text{基準人口集団のその年齢(年齢階級)の人口}]\} \text{の各年齢(年齢階級)の総和} / \text{基準人口集団の総人口}$$